

2011. 12. 22

プレスリリース

「内外の化繊工業の動向」

2011年 第3四半期

平素より格別のお引き立てをいただき厚く御礼申し上げます。
このたび、当会では、標記の報告書をまとめましたので、その
「概要」をお届けします。
ご高覧下さるよう、よろしく願い申し上げます。

日本化学繊維協会

(お問合せ先 業務調査グループ TEL 03-3241-2313)

概 要 (2011年第3四半期)

2011年7-9月のわが国の景気は、東日本大震災からの回復より持ち直してはいるものの、引き続き厳しい状況が続いた。生産活動はサプライチェーンの立て直しによる持ち直しが見られたものの、電力供給の制約などマイナス要因により盛り上がりには欠けた。先行きについては、海外景気の低迷や電力供給の制約など不安要因を抱えており、雇用情勢を含め厳しい状況が続くものと見られる。

化繊景況も震災による自動車生産の回復にともない、自動車向けが期初より回復が見られた。円高の進行より輸出向け採算の悪化、衣料品を中心とした輸入製品の増加により、国産品の回復は力強さを欠いている。

国 内

1) 繊維景況は主力の自動車向けが被災による自動車生産の減少からの持ち直しにより、前年並みの水準にまで回復したが、先行きについては、不安定な欧米経済、円高の進行による輸出採算の悪化、また輸入製品の増加などの不安要因を抱えている。

衣料用は、スポーツ、ダウンジャケット向け軽量高密度織物は引き続き堅調、ユニフォームで復興需要がみられたが、ファッション衣料は震災後の自粛ムードもあり低迷、実用衣料、クールビズ商品が店頭で活況を呈したが、これらの用途向け投入はすでに終了しており効果は小さかった。インテリア用は、カーテンで「遮熱カーテン」向けの引き合いが増加、カーマットなどの自動車関連商品が自動車生産の回復により8月以降は前年の水準にまで回復した。産業資材用では、タイヤコードは補修用を中心に堅調、ポリエステルタイヤコード織物の輸入が増えている。シートベルト、エアバックなどの自動車関連は自動車生産の回復とともに持ち直した。建築関連は本格的な復興需要は年明け以降になるとみられる。

2) 生産指数は、繊維工業全体では前年比・前期比ともに横ばい、化繊も前年比横ばい、前期比1.02%減。紡績は6.9%減、3.1%減といずれも減少。在庫指数(期末)は、繊維工業が前期比2.4%増、化繊7.6%増、紡績1.6%増といずれも増加している。

(生産、在庫とも指数ベースの比較)

3) 繊維品輸出は、ドルベースで26.0億ドル・前年比13.8%増と7四半期続けて前年比増加。また円ベースでも2,027億円・3.1%増。形態別(ドルベース)では、繊維原料(前年比16.0%増)、糸類(13.4%増)、織物類(15.1%増)、二次製品他(11.9%増)といずれも2桁増となった。主な仕向地別では、全体の4割を占める中国は10.2億ドル・11.7%

増と引き続き好調。アセアン向けは、インドネシアが横ばい（0.7%減）であったが、タイ（25.2%増）・マレーシア（24.6%増）・ベトナム（40.7%増）の増加により、4.8億ドル・24.6%増と大きく増加。欧州2.9億ドル（11.0%増）、香港1.9億ドル（0.8%増）、米国1.7億ドル（8.0%増）、韓国1.1億ドル（12.0%増）は増加した。

4) 繊維品輸入は、ドルベースで125.2億ドル、前年比29.8%増と6四半期続けて前年比増加した。また円ベースも9,727億円・17.7%増。形態別（ドルベース）では、繊維原料は2.3億ドル・54.7%増、糸類は4.0億ドル・34.1%増、織物類は4.2億ドル・33.6%増、二次製品は114.8億ドル・29.1%増と大きく増加している。仕出地別では、全体の75%を占める中国が26.3%増の93.4億ドル、アセアンもベトナム（59.2%増、6.2億ドル）、インドネシア（65.1%増）、タイ（41.1%増）などの増加により57.5%増の146.6億ドルと大きく増加。イタリア3.7億ドル（25.7%増）、韓国1.9億ドル（20.3%増）、米国1.5億ドル（9.6%増）となっている。

繊維品輸出・輸入実績

項目	単位	10.7-9	11.4-6	11.7-9	前年比(%)	前期比(%)
輸出	千ドル	2,287,790	2,584,723	2,603,081	13.8	0.7
計	百万円	196,616	211,144	202,743	3.1	-4.0
繊維原料	千ドル	359,338	444,194	416,895	16.0	-6.1
糸類	〃	300,445	327,767	340,767	13.4	4.0
織物類	〃	734,668	863,545	845,708	15.1	-2.1
二次製品他	〃	893,340	949,217	999,711	11.9	5.3
輸入	千ドル	9,645,046	9,520,858	12,520,432	29.8	31.5
計	百万円	826,284	778,746	972,699	17.7	24.9
繊維原料	千ドル	146,068	234,497	225,917	54.7	-3.7
糸類	〃	299,923	466,489	402,291	34.1	-13.8
織物類	〃	310,983	432,045	415,500	33.6	-3.8
二次製品他	〃	8,888,070	8,387,827	11,476,723	29.1	36.8
(うち衣類)	〃	(7,620,078)	(6,959,017)	(9,908,785)	30.0	42.4
輸出レート	円/ドル	85.9	81.7	77.9	-9.4	-4.7
輸入レート	円/ドル	85.7	81.8	77.7	-9.3	-5.0

(出所) 財務省

5) 化繊生産は26.0万トン、前年比1.3%増、前期比0.1%増。うちセルロース繊維は4.1万トン・前年比2.1%増、前期比2.0%減。合繊は21.9万トン・前年比1.2%増、前期比0.5%増となり、化繊全体及び合繊は6四半期連続で前年比増加している。期末在庫は、9.7万トン・前期比16.2%増。セルロース・合繊ともに前期比2桁の増加となっている。

化繊輸出（繊維原料～二次製品）は15.9万トン・前年比1.4%増。レーヨンSは中国向けは増加したものの、主力の米国向けが円高もあり大幅に減少し、全体でも45.8%

減(1,536 トン)となった。主要四品種ではポリエステルSが1.7%減であったが、ナイロンF 24.2%増、ポリエステルF 13.3%増、アクリルS 7.6%増となった。織物(面積ベース)は4.3%増、うちナイロンF織物は中国向け堅調により13.5%増、ポリエステルF織物は3.3%増、ポリエステルS織物0.6%増。

化繊輸入は41.3万トン・19.1%増。繊維原料(1.7万トン・12.0%増)、糸類(5.1万トン・7.6%増)、織物類(面積ベース、1.75億㎡・32.6%増)、二次製品は31.7万トン・21.6%増、うち衣類は18.6万トン・29.2%増となった。また、不織布(重量ベース)は長繊維が1.9万トン・4.1%増、短繊維は0.99万トン・9.6%増と増加した。

化学繊維の主要指標

項目	単位	10.7-9	11.4-6	11.7-9	前年比(%)	前期比(%)
化繊生産	千トン	256.8	260.0	260.2	1.3	0.1
セルロース	〃	40.5	42.1	41.3	1.9	-2.0
合 織	〃	216.3	217.8	218.9	1.2	0.5
化繊在庫	〃	92.2	83.8	97.3	5.6	16.2
セルロース	〃	14.7	15.3	17.2	16.6	12.4
合 織	〃	77.5	68.5	80.1	3.4	17.0
化繊輸出	千トン	156.8	168.5	159.0	1.4	-5.7
	100万ドル	1,414.0	1,619.8	1,616.6	14.3	-0.2
	億円	1,215.0	1,324.1	1,258.0	3.5	-5.0
繊維原料	千トン	77.8	86.1	77.8	0.0	-9.6
糸 類	〃	29.1	28.9	30.3	4.2	4.6
織物類	百万㎡	161.4	177.3	168.3	4.3	-5.0
二次製品	千トン	23.4	24.1	23.1	-1.1	-4.0
化繊輸入	千トン	346.8	318.0	413.1	19.1	29.9
	100万ドル	4,360.6	3,795.8	6,166.5	41.4	62.5
	億円	3,695.1	3,103.9	4,786.1	29.5	54.2
繊維原料	千トン	14.8	14.0	16.6	12.0	18.1
糸 類	〃	47.8	52.6	51.4	7.6	-2.4
織物類	百万㎡	131.7	178.1	174.6	32.6	-2.0
二次製品他	千トン	261.0	224.0	317.3	21.6	41.7
(うち衣類)	〃	(143.9)	(105.7)	(185.9)	29.2	75.8

(出所) 経済産業省、財務省

(注) 1. 在庫は生産者在庫で各期末 2. 化繊輸出入の計には化繊くずを含む

6) 主要合繊品種の動向は次の通り。

ポリエステルF：生産は前年比8.8%減の45,062トン。織物生産は10.4%増の1億368万㎡と5期連続の増加となった。衣料用では、軽量高密度織物は引き続き堅調に推移したが、これまでのような勢いは見られなくなった。スポーツ・アウトドア用が堅調に推移、ユニフォーム用で復興需要が見られた。また前期堅調であった裏地は一服。婦人は引き続き低迷。非衣料用では、自動車関連用途は、自動車の生産回復によりほぼ前年並みそれ以上にまで回復。タイヤコードコード織物の輸入品が国内消費量の半数近くを占めるまで拡大、中国、インドネシアから増加。カーシート用は堅調に推移したが、輸入糸が増加している。カーテンは節電対応から「遮熱カーテン」が好調。フィラメント輸入は9.8%増の

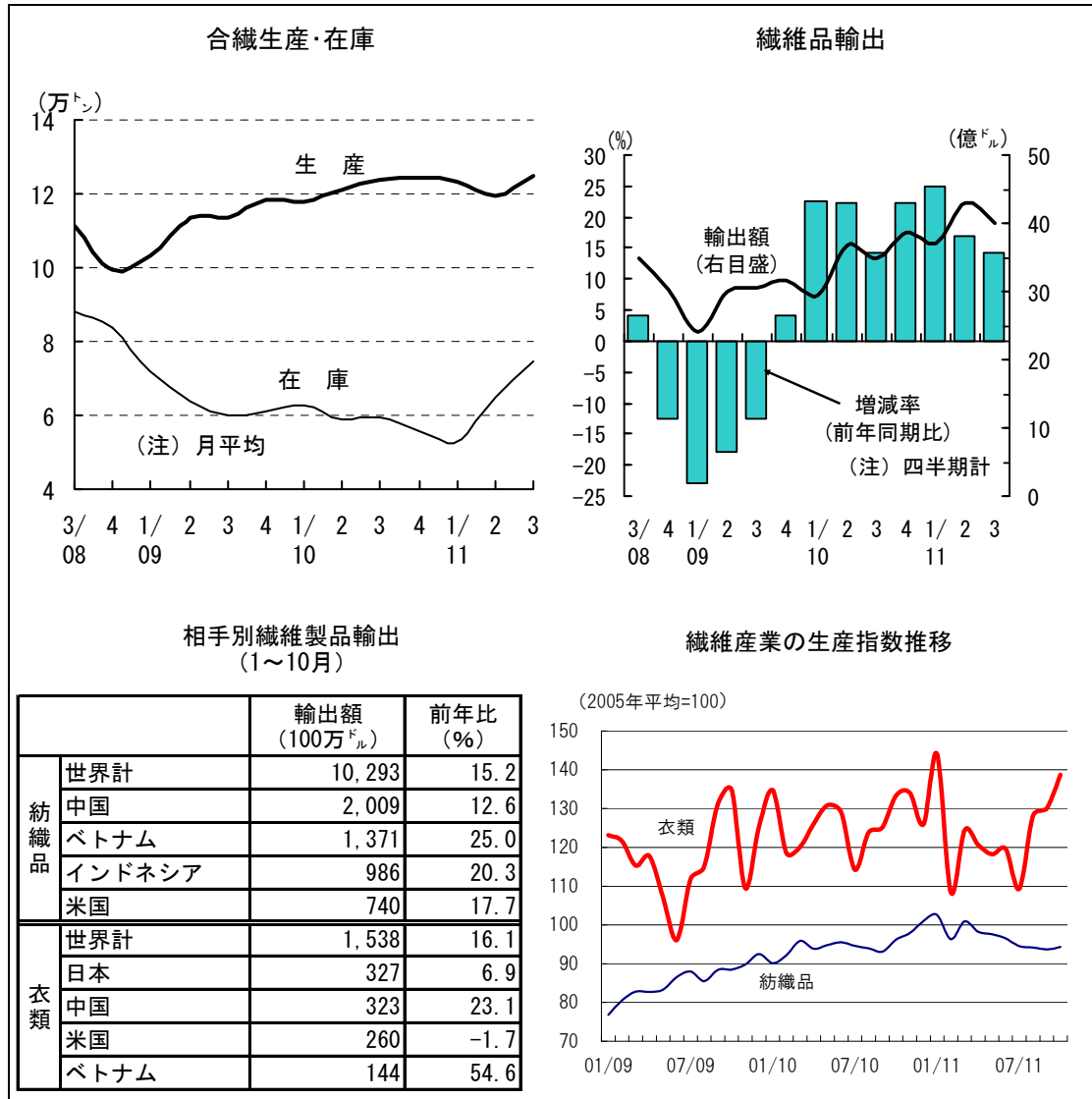
29,233 トン。全体の半分を占める台湾が 14.1%増・14,151 トン、タイ 4,611 トン、インドネシア 3,690 トン、中国 3,134 トン、韓国 2,897 トンが続いている。

ポリエステル S：生産は前年比 0.3%増の 40,994 トン。紡績用では、綿混、レーヨン混ともに順調であったユニフォーム向けがここに来て在庫積み増しなどにより調整局面に入った。ウール混はスクール関連が堅調。純糸は復興需要による帆布向けが堅調。製綿用は震災需要の一段落により苦戦。店頭では安価の羽毛製品との競争が激しくなっている。不織布用は、衛材は震災特需が一段落の上、製品輸出では放射能の風評被害を受け、低位で推移。生活資材はウェットティッシュが震災特需に続き、節電対策対応により堅調。パップ剤も順調。車両資材は自動車生産の回復と共に回復、円高によるコストダウン圧力が強くなっている。湿式不織布は製紙メーカーでの在庫水準が低いこともあり順調に推移。ステープル輸出は、1.7%減の 9,111 トン。中国、欧州、タイ、米国向けが増加。輸入は 19.7%増の 8,491 トン。韓国、台湾、中国やタイ、インドネシアが増加している。

ナイロン F；生産は前年比 0.3%増の 24,687 トン。織物生産は 16.1%増の 3,465 万㎡と 6 期連続前年比増となった。衣料用は主力のレグで、レギンス・トレンカに陰りを見られる一方、プレーンパンストが復活。ハイテンションニットは、国内向けは一服感が見られるが、中国向け輸出は順調に推移。ダウンジャケットは好調に推移、織機スペースはフル稼働が続いた。アウトドア用も欧州の消費者に受け入れられ堅調に推移。非衣料用では、タイヤコード用は、タイヤメーカーのフル生産によりキャッププライ用、バイアスタイヤ用ともに好調。エアバッグ用も自動車の生産回復により増加、カーペットはタイルがリニューアル用で回復兆しがみられ、また車輛用ラインマットも回復地合いにある。フィラメント輸出は、24.2%増の 6,713 トン。タイ 2,142 トン(23.4%増)、フィリピン 1,621 トン(13.4%増)、中国 688 トン、韓国 516 トンなど。フィラメント輸入は 5.1%増の 7,065 トン。台湾 1,612 トン(8.8%増)、カナダ 1,247 トン、米国 1,121 トン、中国 1,050 トンなど。

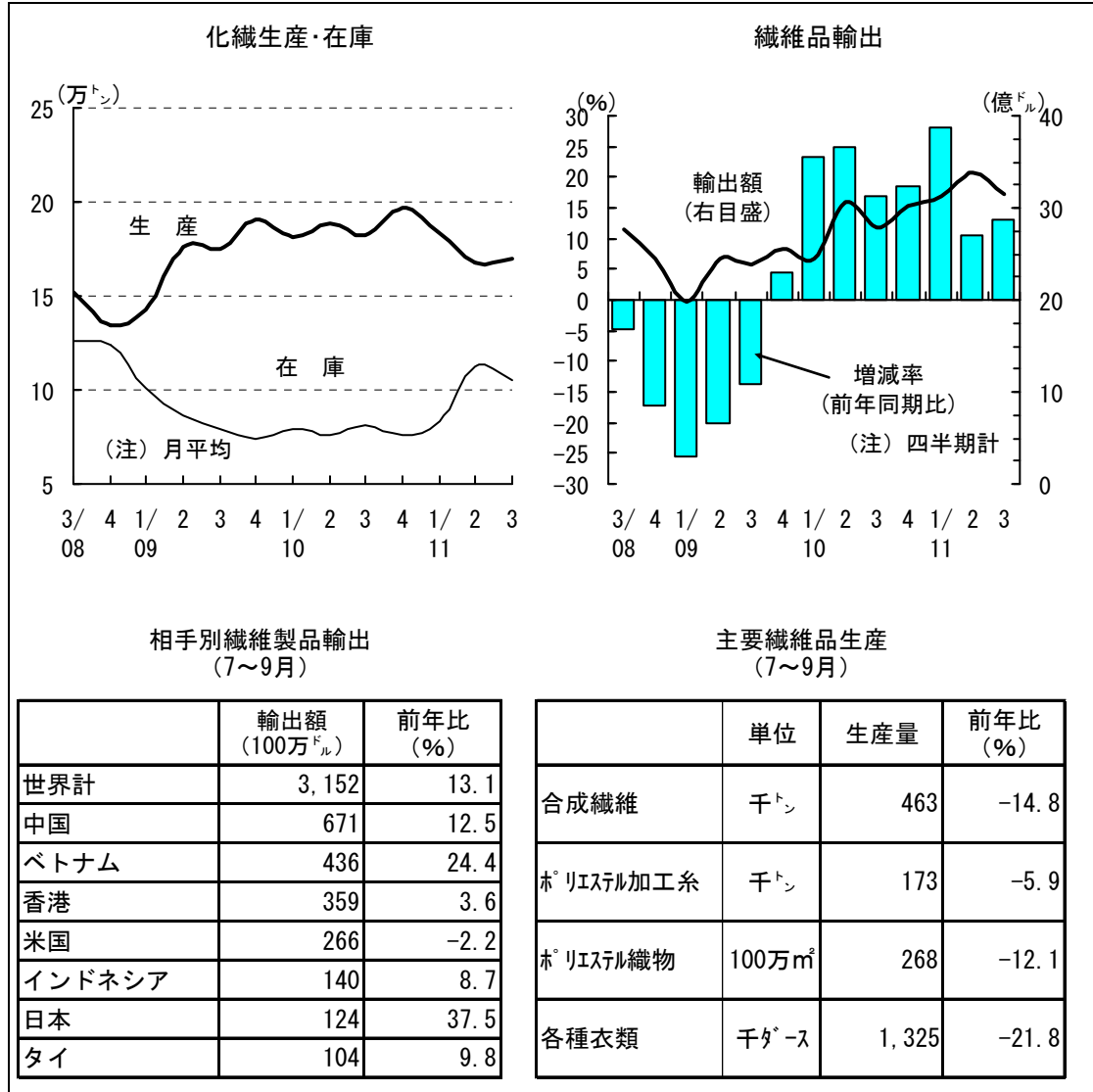
アクリル S：生産は前年比 9.5%増の 39,692 トン。紡績糸生産は 0.4%増の 2,806 トン。保温肌着は冬場の節電対策から投入は堅調であったが、ここに来てタンス在庫が多くなっていると見られここにきて不透明感が出つつある。靴下はこれまでのポリエステル綿混からアクリル綿混に再びシフトにより堅調。またレグ・アームウォーマーなど付随用途も増加した。毛布は大手問屋の間でポリエステル製の中国品が定着、震災による流通在庫の一掃による効果はあまり見られなかった。カーペットは長繊維化により、ラグや水回りのピース向けに限定され苦戦が続いている。ステープル輸出は、主力の中国は 17.7%増の 21,435 トンと好調。世界的なファーブームにより、フェイクファー向けは好調に推移。インドネシアは 4.5%増の 3,187 トンと安定。中国-アセアン FTA 締結で紡績糸の供給基地、縫製基地としての期待が急速に高まっている。

7) 韓国



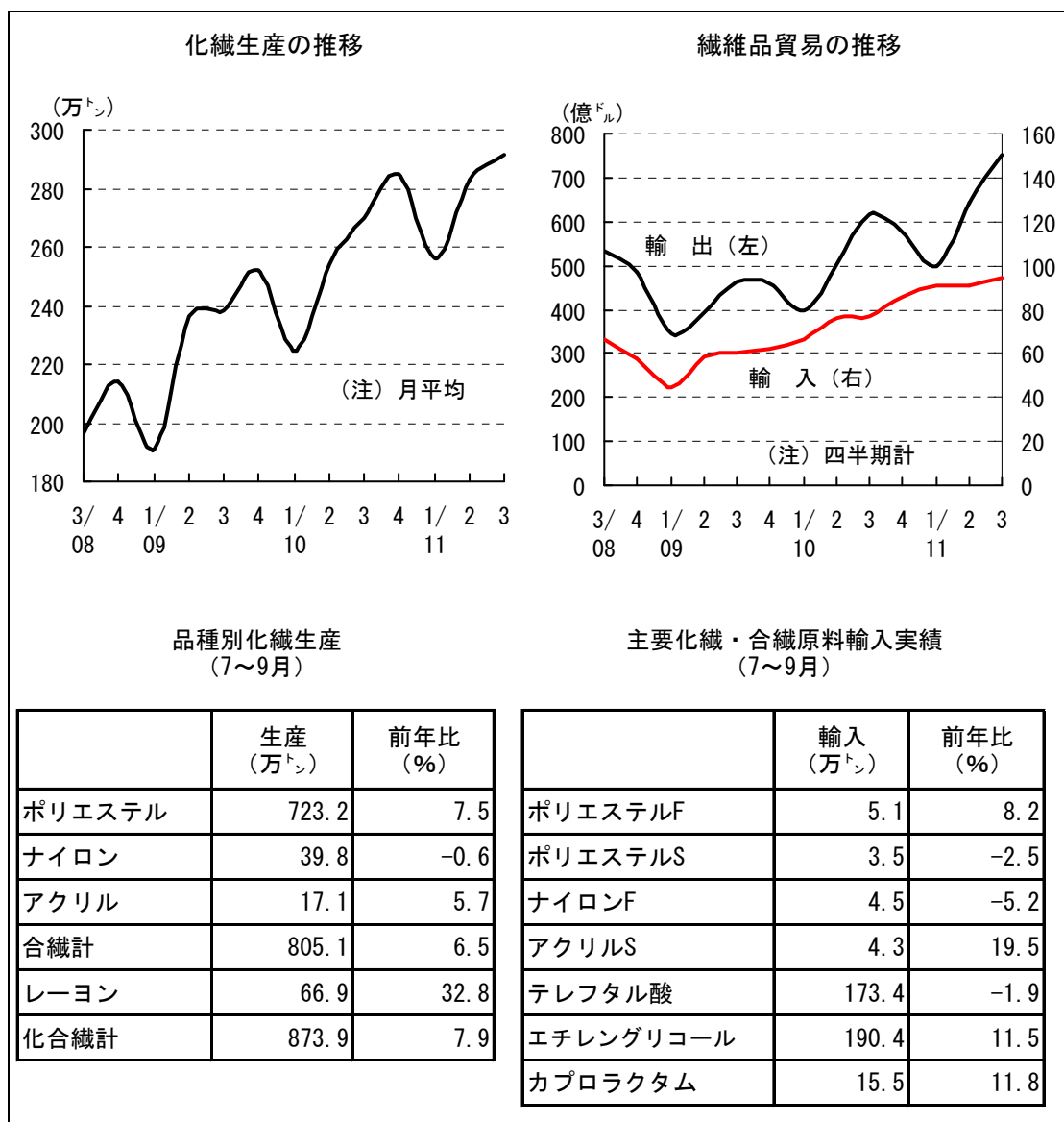
- ◆合繊生産は前年同期比横ばいとなったが、繊維品輸出は引続き増加している。
- ◆合繊生産（7-9月、7-8月実績より推計）は前年同期比横ばいの37.5万トン。一方で、期末在庫は前年同月比25%増と2011年に入り増加傾向が続いている。
- ◆繊維品輸出は前年同期比横14.4%増の40.0億ドル、8期連続で前年実績を上回った。相手別にみると、繊維品では、ベトナム、インドネシア向けが2割を超える大幅増となった。衣類では、中国、ベトナム向けが好調に推移している。11月、米韓FTAが韓国国会を通過、2012年からの発効見込みであり、韓国の繊維業界では対米輸出改善を期待している。
- ◆直近（2011年10月）の繊維品の生産指数をみると、繊維品は前年同月比2.0%減、衣類は4.1%増となった。

8) 台湾



- ◆合繊生産は前年同期比2期連続の減産となった。一方で、繊維品輸出は続伸している。
- ◆化合繊生産(7-9月、以下同様)は前年同期比6.9%減の51.0万トンとなった。品種別にみると、ナイロンFは11.7%減の8.0万トン、ポリエステルFは7.7%減の26.0万トン、同Sは7.7%減の12.9万トンと減少、アクリルSは10.4%増の2.2万トンとなった。期末在庫は前年同期比27.7%増となった。
- ◆繊維品輸出は、前年同期比13.1%増の31.5億ドル、7期連続で前年実績を上回った。中国向けは12.5%増と全世界向けの伸びを下回ったが、ベトナム、日本向けが大幅増となった。
- ◆主要繊維品の生産は軒並み前年実績割れとなった。ポリエステル加工糸、ポリエステル織物、衣類生産はそれぞれ5.9%減、12.1%減、21.8%減となった。

9) 中 国



- ◆ 繊維生産、繊維品輸出、内需とも拡大しているが、その伸びは鈍化がみられる。
- ◆ 第3四半期の化繊生産は7.9%増の874万トと1桁台の伸びに鈍化した。品種別には主力のポリエステルは7.5%増の723万ト、ナイロンは0.6%減の40万ト、アクリルは5.7%増の17万ト、レーヨンは32.8%増の67万トとなった。
- ◆ 繊維品輸出(7-9月、以下同様)は前年同期比22.4%増の754億ドル、7期連続で前年実績を上回った。一方、繊維品輸入は22.9%増の94億ドルとなった。
- ◆ 主要化繊の輸入をみると、ポリエステルは、Fが8.1%増、Sは2.5%減、ナイロンFは5.2%減、アクリルSは19.5%増となった。合繊原料輸入は、テレフタル酸は1.9%減、エチレングリコールは11.5%増、カプロラクタムは11.8%増となった。1-10月の綿花輸入は2.4%減の220万トとなった(但し、金額ベースでは57.8%増)。

相手別繊維製品輸出 (1~9月)			繊維業界の主要指標 (1~9月)			
	輸出額 (億ドル)	前年比 (%)		単位	指標	前年比 (%)
世界計	1,907	24.0	企業数	万社	3.6	-
アジア	793	25.1	赤字企業数	万社	0.4	13.5
香港	116	4.9	主要業務収入	億元	38,394	29.4
日本	206	25.5	利潤総額	億元	1,900	32.5
韓国	49	28.9	工業総生産額	億元	39,558	29.0
アセアン	144	41.3	就業人数	万人	1,005	6.4
EU	428	25.8	繊維産業実際投資	億元	4,864	31.8
米国	299	12.3	うち化繊産業	億元	530	46.3

全国主要大型小売店の販売額 (1~8月)				繊維関連物価指数 (2011年1~11月)	
	単位	数値	前年比 (%)		前年同月比 (%)
商品売上総額	億元	4,876	24.2	企業物価指数(出荷)・衣類	4.3
うち衣類	億元	1,115	23.6	消費者価格指数・全製品	6.3
婦人服	万点	9,171	8.5	消費者価格指数・衣類等	-1.4

- ◆2010年1-9月の相手別の繊維品輸出をみると、EU向け、米国向けは、景気の先行きに不透明さが増しているものの、それぞれ25.8%増、12.3%増といずれも増加した。但しその伸びは鈍化している。日本向けは25.5%増、韓国向けは28.9%増、アセアン向けは41.3%とアジア主要国地域向けは増加が続いている。
- ◆1-9月の繊維産業の業績、投資に関する主要指標をみると、好調な内需や原料、紡織品価格が堅調に推移していることから、主要業務収入は29.4%増、利潤は32.5%増と好調が続いた。繊維産業の実際完成投資は31.8%増、化繊産業は46.3%増と、その伸びはやや鈍化しているものの大幅増が続いている。
- ◆繊維産業の衣料用内需は好調に推移している。1-8月の衣類売上(主要大型小売店)は前年同期比24.2%増と2割を超える増加が続いている。一方で、物価指数をみると、綿花/原料価格の高騰によって、企業物価は上昇しているが、末端の競争が激化していることもあり、衣類の小売物価の伸びは1.4%減と減少した。

JCFA

合繊4品種需要実績

I. ポリエステルフィラメント需要実績

(単位:トン、%)

		2011年7～9月 実績	対前期比	対前年同期比
国内 需要	衣料用 (加工品輸出用含む。)	20,677	97.4	96.1
	非衣料用 (加工品輸出用含む。)	50,484	104.2	101.1
	計	71,161 (29,233)	102.1 (103.2)	99.6 (109.8)
輸出 (原糸、加工糸)		4,333	119.9	98.7
需要計		75,494	103.0	99.6
在庫		15,483	103.2	86.1

(注)国内需要の()内数値は輸入量

II. ポリエステルステープル需要実績

(単位:トン、%)

		2011年7～9月 実績	対前期比	対前年同期比
国内 需要	紡績用 (加工品輸出用含む)	6,620	104.1	97.4
	非紡績用 (加工品輸出用含む)	31,084	111.2	94.5
	計 (輸入)	37,703 (8,491)	116.5 (131.8)	100.3 (119.7)
輸出 (ステープル・トゥ・トップ)		6,957	77.9	98.3
需要計		44,660	108.2	100.0
在庫		25,012	109.6	108.6

(注)国内需要の()内数値は輸入量

III. ナイロンフィラメント需要実績

(単位:トン、%)

		2011年7～9月 実績	対前期比	対前年同期比
国内 需要	衣料用 (加工品輸出用含む。)	10,027	94.6	96.9
	非衣料用 (加工品輸出用含む。)	17,019	106.0	102.7
	計	27,046 (7,065)	101.4 (96.3)	100.5 (105.1)
輸出 (原糸、加工糸)		4,564	171.3	132.5
需要計		31,610	107.8	104.1
在庫		11,122	101.7	112.9

(注)国内需要の()内数値は輸入量

IV. アクリルステープル需要実績

(単位:トン、%)

		2011年7～9月 実績	対前期比	対前年同期比
国内 需要	衣料用 (加工品輸出用含む。)	6,568	80.4	113.2
	非衣料用 (加工品輸出用含む。)	2,564	81.1	98.8
	計	9,132 (336)	80.6 (83.2)	108.7 (58.3)
輸出 (ステープル・トゥ・トップ)		29,741	98.1	100.3
需要計		38,873	93.4	102.1
在庫		8,433	104.6	103.9

(注)国内需要の()内数値は輸入量